

安田そうへい

志通信



皆様、いつもお世話になっております。平成29年度が皆様にとって素晴らしい一年となりますように心からお祈り申し上げます。

去る3月には「奄美群島国立公園」が誕生し、これからはますます奄美の自然・歴史・文化に世界からの注目が集まることでしょう。これからも自然との共生を大事に、シマの宝の保全と開発・現代化とのバランスの取れた発展・繁栄のあり方を皆様と一緒に考えて参ります。

市議会も今年度から議会報告会を年2回開催し、皆様との距離を縮める努力を継続します。政務活動費や行政視察の報告書をインターネットや議会だよりで公開することで、透明性を高めて参ります。「明るい奄美市」実現のために、皆様から期待と信頼を頂ける市議会づくりを進めますので、より一層のご指導をお願いいたします。

安田そうへい



そうへいの議会トピックス

直近の議会での決定事項や進捗状況についてお知らせします

1 平成29年第1回定例会(3月定例会)における議案について

- 28年度一般会計補正予算第4号(7億6065万円の増額)⇒結果、一般会計総額は342億1223万円。その主な内容は、
 - ①地域振興基金積立金3億9623万円、過疎地域自立促進特別事業基金積立金1億9180万円、減債基金積立金1億262万円、公共施設整備事業基金積立金7900万円⇒基金積立金総額は28年度末で146億円(前年度比約17億円増)
 - ②平田浄水場更新のための前倒し出資金1億8700万円
 - ③奄美北部地域観光拠点施設整備事業6510万円:あやまる台地に観光案内・軽食が取れる施設を整備
 - ④名瀬・住用地区学校給食センター工事請負費1650万円:給食配送用トラックの車庫整備
 - ⑤海岸漂着物地域対策推進員賃金1476万円
 - ⑥その他、事業費確定などによる予算減額多数
- 国民健康保険事業・介護保険事業など8特別会計・企業会計の補正予算
- 市立幼稚園保育料徴収条例の一部を改正する条例:29年度から朝日幼稚園で預かり保育事業を実施することに伴う条例整備

- 「市議会による自衛隊配備に関する説明会」開催を求める陳情⇒不採択
- 「奄美に大学を設置する審議会」の発足に関する陳情⇒採択
- 新年度一般会計予算318億円(前年度とほぼ同等)
- 新年度国民健康保険事業特別会計予算73億円、水道事業会計予算23億円を含む、全11の特別会計等予算合計176億円(前年度比約14億円、7.4%減)
- 教育委員会委員1名が決まりました
- 地方議会議員の厚生年金への加入を求める意見書⇒可決
- 国道58号おがみ山バイパス事業の早期再開に関する意見書⇒可決

2 議会活性化について

この1月から3月も、議会日程の合間を縫って計4回のワーキンググループ会合を開催。常任委員会審査を3日間に分けて開催、議会報告会の内容改善(名瀬地区で2カ所開催など)を議会全体で決定し、実現に向けて鋭意取り組んでいきます。去る2月には議員研修会を行い、全国の事例に基づき、議会審議の活発化について学びました。市民の皆様の期待を超える働きができる議会づくりを目指して、挑戦はまだまだ続きます。

1. 奄美市 新年度予算

一般会計

は歳入・歳出とも約 318 億円です。昨年度との比較をしながら、新年度の特徴をチェックしてみましょう。

【歳入】

歳入では市税 37 億円 (前年度比 0.1% 増)、市債 46 億円 (同 7.3% 増)、地方交付税 118 億円 (同 1.7% 増)、国庫支出金 67 億円 (同 1.4% 減)、県支出金 18 億円 (同 16.7% 減) など。交流人口増加による経済効果は、定住人口減少と相殺されているのかもしれませんが。

【歳出】

歳出では、扶助費 (福祉) 92 億円 (前年度比 0.4% 増)、人件費 45 億円 (同 1.4% 増)、公債費 (借金の返済) 41 億円 (同 3.5% 増)、普通建設事業費 (公共事業) 50 億円 (同 8.1% 増) など。引き続き、名瀬本庁舎や学校給食センターの建設事業が行われます。

【借金総額】

29 年度末の奄美市の借金総額 (一般・特別会計等含む) は前年度当初予算時より 17 億円増の 54.2 億円となる見込み。基金積立金が増えつつあるとはいえ、市民一人当たり借金額は県内トップレベルであり、チェックが欠かせません。

【目玉事業】

予算規模の大きい主な目玉事業は、
 ・名瀬本庁舎建設事業 16 億円
 ・名瀬・住用地区学校給食センター建設事業 7.1 億円

・末広・港土地区画整理事業 4 億円

・赤木名地区特定環境保全下水道整備事業 3.7 億円

・観光プロジェクト事業 (名瀬大浜・笠利あやまる・住用内海) 2.8 億円

・平田浄水場更新事業 2.1 億円

・光ブロードバンド基盤整備負担金 1.6 億円

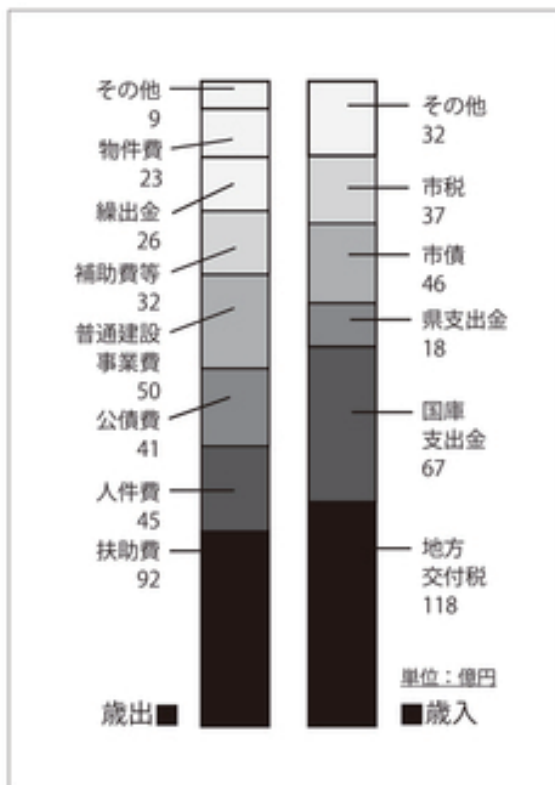
・奄美空港ターミナルビル拡張事業負担金 1 億円

・市民交流センター (名瀬公民館代替施設) 整備事業 2100 万円

・国民健康保険事業特別会計への財源補てん 2.5 億円 など

【新規・拡充事業】

29 年度は以下のような新規・拡充事業が始まります!
 ・出産祝い金 (第 2 子が 5 万円、第 3 子以降が 10 万円に拡充)
 ・敬老祝い金 (満 100 歳の方に 10 万円を贈呈)
 ・介護予防・日常生活支援総



合事業 (訪問介護・通所介護・一般介護予防事業など、メニューや担い手が多様化します)

装着支援事業

・ノネコ対策事業 (ノネコの一時収容施設を整備)
 ・中小企業振興会議開催
 ・中小企業・小規模企業振興条例に基づくもの

・生活保護受給者の健康管理支援事業
 ・生活困窮者自立支援事業

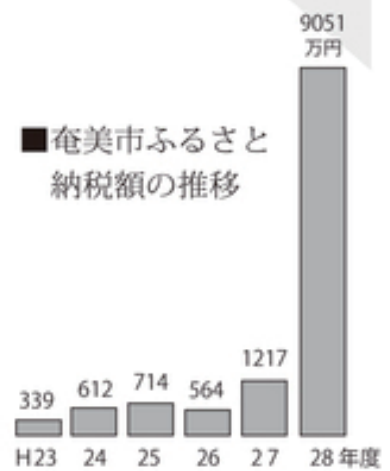
・生活困窮者自立支援事業 (一時生活支援・家計相談支援・子どもの学習支援)
 ・景観計画策定

・歯科保健事業 (名瀬地区の 3 歳児以下へのフッ素塗布を無料に)
 ・AI フェスティバル

・後期高齢者医療保険加入者への人間ドック費用助成
 ・奄美への大学設立の可能性についての有識者検討会開催 など

・飼い猫へのマイクロチップ

2. 地方創生&ふるさと納税の活用



政 府主導で進められている地方創生も平成31年度まで、あと3年が勝負です。29年度も約7億円の財源を投資し、65事業を展開する予定ですが、地方創生の目的は人口減少克服と地域経済活性化ですので、しっかりと将来につながる種まきをしてほしいところ。「奄美大島総合戦略」では主に外貨を獲得する産業である基盤産業（農林漁業・製造業・宿泊業・運輸業等）

の従業員を増やすという目標が掲げられており、ここもしっかりと手当てしてほしいと要求しました。折しも昨今の雇用情勢は数年前より大幅に改善し、人手不足を懸念する声も聞かれます。U・I・ターン

の獲得に力を入れ、定住人口を増やす好機でもあるので、長期的・複眼的な視点で、地方創生の枠組みを生かしていきたいです。

また、今回初めて予算化された「ふるさと納税等活用事業」について、昨年度は寄附の募集に力を入れた成果もあり、年間で9千万円超の寄附

を頂きました。これまでに頂いて積み立てた分を活用し、地域文化の保存・継承や人材育成など7605万円の予算で13事業を行います。この中には、市内在住の篤志家から頂いた3千万円の寄附を活用した学校ICT等整備事業も含まれます。貴重な浄財を活用し、しっかりと成果を挙げ、報告も行う。このサイクルが回ってこそ、寄附者の方々に喜ばれ、奄美ファンへの定着にもつながりますので、抜かりなく取り組んでほしいです。

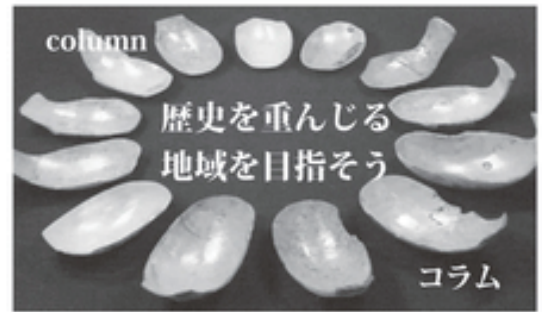
早 ければ来年ともいわれる世界自然遺産登録。それを占うのが、この夏から秋にかけて行われるIUCN（国際自然保護連合）による視察・調査です。自然環境の

保全と活用について課題は山積している状況ですが、中でも急務といわれるのがノネコ・野良猫対策。その発生源を抑えるために、今回「飼いの猫の適正な飼養及び管理に関する条例」を改正しました。そのポイントは、①個体識別用マイクロチップ装着の義務化、②不妊去勢の義務化（やむを得ず屋外で放し飼いする場合）、③飼養頭数の制限（5匹以上は許可が必要）、④飼い猫以外へのエサやりの禁止（観光客なども）。ただし、氏名の公表や過料などの罰則規定がないため実効性を疑問視する声も多く、議会として附帯決議によって条例の実効性強化やノネコ対策の強化などを要望しました。連日メディアを賑わすノネコ・野良猫問題ですが、市民の皆様としっかりとコミュニケーションを取りながら、対策を前に進めていきたいです。

3. ノネコ・野良猫対策

■ノネコ・野良猫問題について、様々な団体や研究者がパンフレットや講演会などで広く市民の皆様の問題提起をしています。猫の飼い方についての正しい理解を島内全体にどのように普及させていくかが大きな課題です。皆様のご理解とご協力をお願いいたします。





「小湊フワガネク遺跡」のシンボルともいえる貝さじ。国の重要文化財に指定されています。約 3 万年前の先史時代の遺跡や宇宿貝塚など縄文時代の遺跡も残る奄美大島は、まさに「歴史回廊の島」。気軽に学べる環境整備とより良い情報発信が期待されます。

奄美群島国立公園のコンセプトは「環境文化型・生態系管理型」という、環境省が初めて示した概念。これは、奄美独特で希少な生態系と人の営みが共存する環境とともに、集落毎に培ってきた歴史・文化・芸能などが評価されたものと捉えることができず。自然環境だけでなく歴史や文化をも保全し活用することが、奄美が奄美であるためにも、また観光業を活性化させて奄美ファンやリピーターを増やすためにも欠かせません。

今年 1 月に名瀬小湊地区で開催さ

れた「小湊フワガネク遺跡シンポジウム」に参加して私は、

歴史的にとっても価値の高い地域の宝がこんなに身近にあったんだ！と気付きました。その

歴史的価値を端的に述べれば、「南西諸島特有の夜光貝

など大型貝類を利用した貝製品生産遺跡」であり、6 世紀

中頃から 11 世紀頃までは南西

諸島の製造・交易の中心拠点

は琉球ではなく奄美であったこと、その中でも一大工業地帯とも

いえる場所が太平洋に面する小湊地区にあったことを考えれば、小湊の方々にとっては大きいなる郷土の誇り

であり、これからも守り継ぐべきシマの宝であるといえます。

今後は「史跡保存活用計画」を策定し、現地で学べるガイダンス施設の整備なども視野に検討を進めていく予定です。文化財課が提唱する

ように、名瀬市街地から住用町へ向かうルート沿いにある小湊地区や住

用町川内地区・市地区など、袋小路

になっていく地域にも観光客増加の

効果が波及するよう、自然・歴史・文化などシマの宝を生かした取り組みをさらに進めるべきでしょう。

来年の NHK 大河ドラマ「西郷どん」についても然り。龍郷町がメインと思われがちですが、名瀬芦花部

地区には「南洲神社」があり、西郷さんと地元住民との触れ合いの逸話が残っており、また赤木名地区中金

久学舎（集会所）には「西郷さんが腰掛けた柱」が残っています。この

機会を生かし、市内の西郷さんゆかりの地や幕末・維新期ゆかりの地（白糖工場跡やらんかん山など）に関する説明板やガイドマップなど情報発信の整備を進めるべきと考えます。

奄美の歴史資源をもう一度棚卸する。そして、それを時宜に応じて整理・発信していく。生活文化や伝統

芸能も、その歴史的背景と合わせて説明してこそ、より大きな感動を伝えることができるでしょう。地元住

民が誇りと自信をもって「歴史を語る」地域に。大人から子どもまで、「歴史に学ぶ」姿勢を高めていければと念じております。



安田そうへい
からのお知らせ

- 「出前報告会」を行います！
ご要望頂ければ議会報告・活動報告に伺わせて頂きますので、気軽にお声を掛けてください。



- 本チラシの「配布ボランティア」を募集しております！
- お困りごとや奄美市へのご要望等ありましたら、どしどしお寄せください！
- しーまブログ、ツイッター、フェイスブックでも活動情報発信中です！

※安田そうへい連絡先：
奄美市名瀬古田町5-7
電話：54-7621 / FAX：54-7620
Eメール：sohei@mskj.or.jp